

令和4年度 実施事業の概要

教育事業名: 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

期間 令和4年9月7日(水)、21日(水)、28日(水)、10月12日(水)、19日(水)

対象及び参加人数: 新潟県立久比岐高等学校1年 31名

目的:

「地域探究プログラム」は高校生の体験を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを育成する。

事業概要:

課題解決の基礎「仲間づくり活動」・演習「地域おこし協力隊について」・講話「地域づくりの実践」・フィールドワーク「地域おこし協力隊の仕事を体験」

【講師】 筒井 惇貴 氏(上越市地域おこし協力隊)

成果:

仲間づくり活動では、グループでの話し合いを活発にするために意図的にコミュニケーションをとるアクティビティを実施した。クラスを超えて様々な人と積極的に関わる様子が見られた。

演習では、全国で活躍する地域おこし協力隊の仕事内容について理解を深めた。くじ引きで、自分が調べる自治体を決め、個人で調べ学習を行った後グループで共有した。

講話では、上越市柿崎区在住の筒井さんから現在の仕事に至るまでの経緯や活動内容について話していただいた。高校生は、地元柿崎区の話や筒井さんのキャリアについて興味深く聞いている様子だった。

フィールドワークでは、実際に筒井さんが活動されている柿崎区の下牧地区で古民家見学や景観散策、道路整備作業といった体験活動を実施した。高校生は、山間地での生活や限界集落の現状を目の当たりにして地域に対する理解が深まっている様子だった。

高校生の感想には、『筒井さんの「柿崎に一目ぼれした」という言葉が印象的だったと』書かれており、事業が地域に潜在する魅力について考えるきっかけとなった。



地域おこし協力隊の活動について調べ、グループ内で共有した。



スライドを使って地域おこし協力隊の活動や筒井さんのキャリアについて話を聞いた。



筒井さんが生活する古民家を見学し、その魅力について肌で感じる事ができた。



地域内の生活道路を整備する作業を実施し、直接地域に貢献する体験をすることができた。

課題:

生徒たちにとって有意義な内容となるよう、地域おこし協力隊の方と連携して今後も継続していきたい。